抄録見本

(MS ゴシック 14pt):センタリング

資料 1

車いすテニス選手の二次障害について

Secondary obstacle with a wheelchair tennis player's

Title (Times New Roman 12pt) :

見出しは、MS ゴシック 10.5pt
本文は、MS 明朝 10.5pt

○○大学大学院・○村行智
▽賀紀貴
○□大学医学部・□松美清
△北奈美

キーワード：○○、××、□□（３つ）

1. はじめに

テニスなどの継続的なスポーツ活動は、障害の有無に関わらず、心身機能に効果的である。車いすテニスは、車いすを使用してテニスを行う競技性競技性の高いスポーツ種目であり、その指導法やトレーニング方法は、これまでの経験に基づき作り上げられている。その一方で、体力科学的な効果や２次障害については、ほとんど取り組まれていないのが現状である。

2. 目的

本研究の目的は、車いすを用いてテニスを行う方々の体力テストを実施し、車いすテニスが彼らのパフォーマンスや２次障害に及ぼす影響を体力科学的な視点から検討した。

3. 方法

対象は､外傷性脊髄損傷者で 2000 年から現在までの 10 年間における車いすテニスの日本代表選手やランキング上位選手男性 30 名（R 群）で、年齢 30.5±4.6 歳、障害レベル C6；10 名、C7；10 名、C8；10 名であった。また、性別、年齢（年齢 30.8±8.3 歳)、障害レベル（C6；10 名、C7；10 名、C8；10 名）をマッチさせた医学的リハビリテーション管理下の脊損者 30 名（C 群）を対照とした。体力テストは、10m走（瞬発力)、3 分間走（持久力)、SR-A（敏捷性）の３種目の測定を行った。10m走は、10mの走行時間、3 分間走は、3 分間の走行距離、SR-A は、30 秒間で３本のラインの通過回数を記録した。

4. 結果

全ての体力テストで、R 群が C 群に比べ有意に高い値を示した(P＜0.01)。障害レベル別の比較でも、全ての測定項目でR群がC群に比べ高い値を示した。特に３分間走ではその差が大きかった。

5. 考察

車いすテニスを継続して行うことは、体力を向上させ、パフォーマンスを高めることが示唆された。

6. おわりに

車いすテニス選手は、障害レベルから予想される体力、パフォーマンスの到達目標を大きく上回ることが可能であると考えられた。

＜参考文献＞

1)△尾□美,松○清□:頸髄不全の ADL の自立度と･･,日本障害者スポーツ学会,vol2,12-18,2009
2)松○清□,○尾□美:2 分脊椎のスポーツ参加と･･,日本リハ医学会,vol3,24-31,2009

ここまでが抄録見本です。
６．おわりに、あるいは＜参考文献＞までで **A4 用紙で 2 ページ**を満たす様に作成してください。

これ以降に原稿の書き方を記載しています。
原稿の形式にしたがい、**A4 用紙で 2 ページ**にまとめてください。それを超える場合や満たない場合は、演題を受け付けることができませんのでご注意ください。

7.　原稿の書き方

この資料の書式をそのまま利用して、原稿を書くことを強くおすすめします。

7.1　原稿の形式

a. 使用ソフト

原稿の作成にはMicrosoft Word2010以前のものをご使用ください。

Word 2010 での作成の場合は前のバージョンでの保存にして下さい。Word 2010 形式で保存されたものは、それ以前のバージョンでは開けない可能性があります。

b. 本文のフォント

タイトルは **MS ゴシック**で 14pt、英語タイトルは Times New Roman で12pt、所属はMS明朝で10.5pt、見出しは **MS ゴシック**で 10.5pt、本文は MS 明朝で 10.5pt をご使用ください。

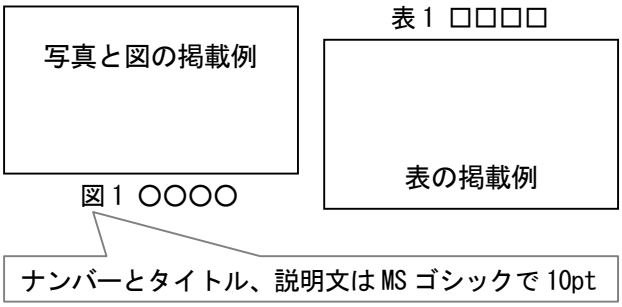
c. 本文のページ設定

A4 用紙で 2 枚です。1 行 23 字（字送り 10pt）、1 段 42 行（行送り 16.7pt）、2 段組（段の幅 23.27 字、間隔 2.22 字）としてください。余白は上 25mm、下 24mm、左 20mm、右 18mm ずつとして下さい。

また、そのまま印刷しますので、紙での切り貼り等は行わない、完成原稿でご提出下さい。

d. 写真と図表

写真と図表は、白黒（グレースケール）に変えて、原稿に掲載して下さい。ナンバーとタイトル、説明文を写真と図は下部に記載し、表は上部へ記載して下さい。フォントは **MS ゴシック**で 10pt をご使用ください。



7.2　原稿枚数

原稿枚数は、A4 で 2 ページです。2 ページを超えるものは受け付けられません。

7.3　文体、文章

(1)文体は「である」体を用いて下さい。

(2)文章はできるだけ常用漢字、新かなづかいを用い、慣用の学術用語を用いて下さい。**専門知識を持たない人にも理解できるよう配慮して下さい。**

7.4　見出し

本文の「章」に相当する大きい見出しは順次1,2,・・・のように、「節」の部分に相当する見出しはそれぞれ1.1,1.2・・・のように、「項」の部分に相当する見出しは 1.1.1,1.1.2・・・のようにして下さい。

なお、見出しは行の端から書き出し、本文は行を変え、一マス空けて書き出すようにして下さい。さらに小さい見出しが必要な場合は順に(1),1)のようにして下さい。

7.5　参考文献

参考文献は、本文中の該当場所の右肩に下記の形で文献番号を記入し、本文の後に文献リストをつけて下さい。（例・・・鈴木ら[1]によると、・・）

文献の書き方は、次のようにして下さい。

(1)雑誌の場合

著者名:表題名,雑誌名,巻(号),最初-最後の頁,発行年

(2)単行本で単独(共同)執筆の場合

著者名:書名,版数,最初-最後の頁,出版社,発行年

(3)単行本で分担執筆の場合

著者名:章名,編集者名(編),書名,版数,最初-最後の頁,出版社,発行年

7.6　資料および図表の引用

他者の著作権に帰属する資料および図表を引用するときは著者が複製権及び公衆送信権の利用許可申請手続きを行って下さい。

8.　原稿の提出上の注意

データは、Microsoft Word で作成した原稿と、PDF 形式で保存したものを下記の演題登録先へお送りください。原稿の不備な点や誤字などについて修正をお願いする場合は、編集部より連絡をいたします。PDF への変換が困難な人は Microsoft Word で作成した原稿のみで結構です（Microsoft Word2000-2010）にて読める形式にて保存してください)。

演題登録先は **genki@wakayama-med.ac.jp** で

す。